

## 「らんらんプロジェクト' 22」 実施報告書

プロジェクトの名称 室工大カフェファンクラブはんもつく  
「学生と地域をつなぐ TENTO のひろば (外部空間構想) づくりプロジェクト」

代表者 創生工学科 建築土木工学コース 岩崎 奈歩 (4年)

環境創生工学系専攻 環境建築学コース 葛西 芳枝 (2年)

### 実施時期

図面作成：10～11月

ツーバイフォーの切り出し：2～3月

合板の墨出し：3月

組み立て：3月

### 実施概要

TENTO のひろばの現状として、主に TENTO の活動で利用されているが、空間が整備されていないことにより「入って良い場所だと認知されてない」ことが課題であると考えられる。そこで、今年度は、過去2年で行った「イベントが行いやすい交流の場」から「日常的に利用できる憩いの場」へと変化し、日常的(継続的)に利用する空間の選択肢を増やすことを目的とし2つのアプローチを行った。

**アプローチ1**：複数の円形ベンチをひろば全体に設置することにより、常時利用できる空間として認識されることを目指す。一方で、「TENTO のみが利用できる空間の拡大」と誤って捉えられる可能性があるためアプローチ2を考える。

**アプローチ2**：平板の道を設置することにより、学生が TENTO 側からだけでなく道路側からもひろばを利用することを目指す。加えて、広場の草や水はけの悪さなどの障害を取り除き、歩きやすい足場を整備する効果も期待できる。

上述した2つのアプローチを実施するにあたり、学生15名(設計・運営3名、搬入・製作等12名)、地域住民2名の**総勢17名**で製作を行った。

### 進捗状況・実施結果

**円形ベンチ製作**：円形ベンチの設計は、伊藤健生(当時修士2年生)が行い、運営を宮田紘志(当時修士2年生)、岩崎奈歩(当時学部3年生)が行った。円形を用いた狙いとして、日常的な会話や飲食での使用、イベントでの客席としての活用等を想定し設計を行った。また、可変式の鋼製束を使用することでベンチとしての使用のみならず、テーブルとしての使用も意図している。製作作業としては、「ツーバイフォーの切り出し」、「合板の墨出し」、「組み立て」等を行った。図面作成・製作作業の際は、地域住民の方から助言いただき、学生が危険な作業は補助していただいた。

**平板の道**：道の作成は、平板を動線部分に置くことで完成とした。デザインに関しては、カフェへ導くだけでなく、普段から歩かれている道やベンチへの道を表出化するデザインとなった。

### 作業完了予定・実施効果

プロジェクトを通して、ひろばに3つのサイズが異なるベンチの設置と平板を用いた道の設置を行った。ベンチが完成後、平板の上を子供たちが飛び歩いて遊ぶ様子や学生がランチで活用している様子、地域の方が散歩の休憩で活用している様子等がみられた。イベントの有無に関わらずベンチを活用している様子や、ベンチと道を作成することで、人が集まり安い空間へと変化を促すことができた。

**実施効果**として、建築専攻学生が設計した点、設計内容を実際にベンチ作りとして形にした点で学びの実践する機会につなげることができた。また、作業段階で先輩方の知恵を学ぶことができ、学部や学年の垣根を超えた学生同士の交流や学びの共有につなげることができた。

今後も、ひろばをより多くの地域住民の方に使用していただき、学生と地域住民とのつながりの場としても機能させることが目標である。

### その他特筆すべき点

コロナウイルス蔓延防止対策により、地域住民とのワークショップ形式のイベントを実施できなかったが、今後の状況次第でイベント実施を考えております。

「学生と地域をつなぐカフェガーデン（外部空間構想）プロジェクト」  
22年度実施報告 創造工学科 建築土木工学コース 4年 岩崎奈歩



今年度のらんらんプロジェクトは、工大カフェ「TENTO」に隣接する広場を大学生だけでなく地域住民の人たちにも広く活用してほしい思いから始まりました。昨年度は、隣接している広場に単管パイプを使用したベンチを作成し、設置しました。その結果、カフェ「TENTO」のイベントの際などは一般市民、学生の方がベンチに座り広場を利用する様子も何度か見受けられましたが、日常的に広場が利用されることは多くありませんでした。

そこで、今年度はカフェに隣接する庭が日常的に利用されることを目標とし、2つの事柄に着目してプロジェクトを進めていきました。まず1つ目は庭からカフェ「TENTO」へのアプローチを考えて整備すること、つまり道を作ることで庭を歩く人を増やし、庭があるということを認識してもらうことです。これは、カフェ「TENTO」の横に空間があることはわかっていても入ってよい場所かどうか分かりにくいと感じたからです。動線を可視化させることで誰でも使って良い場所であることがわかり、道をたどればカフェに着くことでカフェの存在も認知させることができると考えました。(図1) 2つ目は庭に滞留させるためのきっかけを作ることです。道を作ることで庭に誘い、さらに何か活動を誘発するために私たちは円形のベンチを提案しました。(図2)

円形ベンチの設計は当時修士2年生伊藤健生が行い、運営を当時修士2年生宮田紘志、当時学部3年生の岩崎奈歩が行いました。

ベンチを円形とした狙いは、円形にして内側に座ることでお互いの顔を見ながら会話をしたり、飲食をしたりできること、また、何かのイベントの際に円形ベンチが客席のようになればいいなと考えたからです。さらに、ベンチの束には可変式の鋼製束を使用することでベンチにもテーブルにもなるような仕組みとしました。可変式とした理由は今後、庭でイベントをする際に使用することがあればと考えたからです。具体的に考えていたイベントとしてはフリーマーケットや外での食事会などです。

円形ベンチの制作について、発注する材料を確定するまで、また材料が届くまでに時間を要しました。外に置くものなので雨風への耐性、予算、加工のしやすさなど様々なことを考慮し、ホームセンターで用意できる材料で作成するという条件もあったので伊藤、宮田、岩崎の3人でホームセンターを回り、在庫の確認なども行いました。このように、設計から材料発注、更に作成、配置まで建築学生としてベンチの実施設計に携われたことが嬉しく、1年間このプロジェクトに関わっていくなかで自分の成長を感じました。

作成には、伊藤、宮田、岩崎、倉本恭輔、藤村柊斗、原田耕太、葛西芳枝、太田錬、渡辺陽子、鈴木亮汰、佐野湧樹が参加して行いました。

作業は、ツーバイフォーの切り出しから始まりました。作業場所の関係で合板を広げることが難しかったのでまずツーバイフォーを **Crema** で切り出し、次に合板の墨出しをしました。(図3) この段階から地域住民の及川さんに助言いただき、学生が危険な作業はお手伝いいただきました。部材をそろえた後はドライバーで組み立て、防腐剤などをスプレーして完成させました。道の作成は平板を動線部分に置くことで完成としました。(図4)

ベンチが完成した後、格段に庭を利用してくれる人が増えたと実感しています。イベントがなくてもベンチに座ってくれたり、平板の上を子供たちが飛び歩いて遊んでいたり、自分が作成に関わったものを通して空間が豊かになり、人が集まることを実現できたこと関わった学生の自信となったと思います。今後、この庭が地域住民の方に使用され、学生と地域住民とのつながりの場になればと思います。



図1 カフェまで導く平板の道



図2 イベント等で使うことを想定した円形ベンチ



図3 墨出しの様子



図4 完成写真